

令和7年度九州医学技術専門学校自己評価（臨床検査科）（専修学校・各種学校用）

		評価	
		前期	年度末
学校教育基本方針（教育理念）	社会生活に必要な知的で豊かな教養を持ち、専門分野において高度の知識や技術を身につけた臨床検査技師を育成することを目的とする。	B	A
学校教育目標	社会のニーズにこたえられる人材を育成する。医療現場において他の職員と共に働くことのできる協調性と倫理観を身につけ、豊かな教養を持ち、高度の専門知識と技術を持った臨床検査技師を育成する。	B	A
重点努力目標	① 日常から医療人としての自覚を持ち、礼儀正しい人材育成に努める。 ② 実習と講義の連携を図ることで学習に取組みやすい環境をつくる。 ③ 臨床検査技師国家試験合格率90%以上にし、全員就職を目指す。	B	B

成果と課題

国家試験の結果は、受験者39名中34名が合格し、合格者数は前年度より5名増えた。しかしながら、合格率は前年度の96.7%から87.2%に下回る結果となった。次年度からは、新設置する「試験センター」を軸に指導管理体制を強化し、国家試験合格率の100%安定的維持を図る。
就職に関しては、年度内定率は85%の状況だが、国家試験合格優先で就職活動を行っていなかった学生も現在就活中で、近々100%に届くものと思われる。また、1年次において4名の退学者を出したことが課題として残る。学生募集については、少子化・大学志向と困難な状況にある中、目標達成とまではいかなかったが健闘に値する。

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
1. 教育課程・学習指導						
(1) 科目編成における内容や工夫	基礎科目や専門基礎科目を効果的に取り入れ、「基礎力」を育成する。	専門教科とその他の教科は、学年ごとにバランスよく配分し、「基礎力」の育成に向けた科目間の連携に努める。	時間割の作成時に、各科目担当者の意見を反映する。	A	A	適正に実施した。
			導入段階として、高等学校レベルの「生物、化学」問題集を課題として与え、取り組みやすくする。	A	A	
			自主的な学習ができるように、科目間の進捗を調整するよう努める。	A	A	
	臨床検査技師として、即戦力となるような教育カリキュラムを編成する。	「基礎力」を養う科目(生理学、生化学、解剖学など)を配し、特定の「基礎力」を高めるように努める。	国家試験を意識し、段階的に習熟度をみるために、過去の国家試験問題を小テスト形式で実施する。	A	A	生理学および生化学において、中間試験や小テストを計画的に実施し、学習習熟度の確認を行った。2年生については全国校外模試の受験を実施した。
			1学年時より、実習を多く取り入れ、実践的な力を養う。	A	A	次年度の専門実習への円滑な移行を目的とし、1年次より採血手技の指導を実施した。
			専任実習（病院実習）での適応力を高めるため、心電図判読など即戦力となる実践的知識の習得を図る。	A	A	1・2年生を対象に心電図検定の受検を推奨した結果、多数の合格者を輩出することができた。
			就職先となる病院等での臨地実習を行う科目を配し、実際の仕事を経験できるように努める。	A	A	臨床現場で不可欠な血液塗抹作製をはじめとする、各種実技指導を徹底した。
			就職先の病院等と連絡を取り、卒業生の働きぶりなどについて、話を聞く。（聞き取り調査）	A	A	卒業生を通じて病院での活躍をインタビューし、その内容を在校生に周知した。
			学生が即戦力強化を目的とし、現在の臨床現場に準拠した最新の検査機器・器具を導入し、実習環境の整備を図る。	A	A	採血手技の導入として、まずは操作性と安全性の高い翼状針を用いた実技指導を重点的に実施した。
			聞き取り調査の結果を分析し、カリキュラムの編成、科目の教育内容に反映する。	A	A	次年度からの施行に向け、教育課程（カリキュラム）の抜本的な見直しと再編成を行った。

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題	
				前 期	年 度 末		
(2) 教科指導における内容や工夫	指導方法を工夫する。	各授業で繰り返し学習を行い、病院等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、生徒自らが“気づく”ように努める。	各教科にて、授業の中でポイントを明確にし、質問、発問を工夫する。	A	A	講義前に資料を事前配布することで、学生の理解促進と効率的な学習環境の構築に努めた。	
		授業のなかにグループ学習の手法を取り入れ、病院等の現場を想定した課題について、協同して取り組ませ、その結果をプレゼンテーションさせるように努める。	グループ実習により、協同して取り組ませる。 グループ課題研究（病態解析学）に取り組ませ、パワーポイントを使った発表を行わせる。	B	B	グループ活動の過程で役割分担が固定化され、実質的に個人の作業に留まってしまふという課題が浮き彫りとなった。	
		しばしば授業の最後に課題を提示し、決められた期間内に提出させることで、約束を守ることを意識させるように努める。	臨床現場での信頼性に直結する「期限の厳守」を重視し、各教科の提出物管理を通じて、徹底した自己管理能力の育成に努める。		A	適正に実施した。	
				B	B	課題提出の遅延が常態化しているケースが見受けられ、職業人意識の欠如という教育的課題が浮き彫りとなった。	
	現場経験者等の人材を活用し、実践的な「基礎力」を育成する。	就職先となる病院等で豊富な実務経験を積んだ教員が、本人の貴重な経験を教材として活用し、より実践的な「基礎力」が育成できるように努める。	実務経験豊かな常勤職員を指導教員に充て、学内実習における専門性の強化を図る。	A	A	実務経験豊富な人材を常勤講師として確保することで、日常的な学生指導において臨床に即した専門的知見を反映させた。	
		大学進学を含め、多くの現場で活躍している人の講話や授業を行い、仕事に必要な「基礎力」仕事の達成感や厳しさについて自覚できるようになる。	外部講師による特別講話を実施する。（12月） 病院ボランティア等の校外活動を推進し、対人能力の向上と医療人としての規範意識を醸成する。		A	心電図読影のさらなる習熟を目指し、臨床医による専門的な講演会を実施した。	
					A	1年生を対象とした校外学習を実施。地域医療機関の行事参加を通じ、職業意識の啓発を行った。	
	シラバスを作成し、生徒に計画的な学習をさせる。	シラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布することにより、計画的な学習指導につなげる。	前期のシラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布する。	A		適正に実施した。	
			後期のシラバス（授業計画）を作成し、生徒に配布する。		A	適正に実施した。	
	2. 生活指導						
	(1) 生活指導	全教職員で、挨拶、礼儀の指導を行う。	挨拶や礼儀作法などの指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	挨拶の慣行を図る。	B	B	全学的な課題として、授業外における学習・生活習慣の是正と、規範意識の徹底が挙げられる。
				授業開始、終了時の挨拶を徹底する。	A	A	適正に実施した。
職員室の入退室時の正しい動作を指導する。				A	A	適正に実施した。	
		医療人としてふさわしい身なりや態度を身につけさせる。	医療人（社会人）としての意識をもって行動することを自覚させる。	A	A	研究発表会を通じ、公の場での身なりや態度を自覚させた。	

		欠席、遅刻について厳しく指導を行う。	欠席科目については、補講またはレポートで、講義内容の把握を行わせる。	A	A	適正に実施した。
			遅刻、欠席の連絡を、担任に必ず行うように指導する。	A	A	適正に実施した。
			必要に応じて本人との面談、または保護者との連絡を取る。	A	A	欠席が目立つ場合は保護者との三者面談を実施した。
(2)	問題行動の予防に努める。	教職員全員で、悩みを抱える学生の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動を未然に防止する。	学生の変化に気づいたら声をかける。	A	A	適正に実施した。
			朝礼などで、生徒の変化などを伝え合い、共通理解を図り、生徒の対応を協議する。	A	A	朝礼で伝え合うとともに、面談記録を一元管理し職員で共有した。
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
3. 進路						
(1)	キャリアサポート	1年次前期終了までに、生徒個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	1年次前期終了までに生徒個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	A	A	新入生の早期理解と適切な修学支援のため、入学時にクレバリン検査およびHyper-QUを施行し、各学生の資質に応じた指導体制を整えた。
		学習のモチベーション、就職への動機づけなどを高めるため、入学後の早い段階から、就職適正に関する個別面談・指導を行う。	個人面談、3者面談を必要に応じて実施し、生徒の希望に沿った指導を行う。	A	A	学力課題を抱える学生の保護者と緊密に連携し、家庭学習の習慣化と精神的サポートの実施を求めた。
			病院見学を1年次6月に行い、現場で活躍する臨床検査技師の仕事内容を知り、職業への意欲を持たせる。	A	A	病院行事や地域イベントへの参画を通じ、医療従事者に求められる社会性や、地域社会との共生の重要性を深く認識させた。
	具体的でわかりやすいアドバイスを行う。	就職指導においては、一般常識や専門分野の試験対策、また、就職活動の進め方、履歴書の書き方、マナーなど、1年次の段階から具体的に指導を行う。	一般常識対策として問題集の活用、確認テストを行なう。	A	A	ICT教材「すらら」を導入し、専門教育の基盤となる読解力向上プログラムを体系的に実施した。
			履歴書の書き方、面接の方法など具体的に指導にあたる。	A	A	適正に実施した。
			就職担当者をおき、常に相談・指導できるようにする。	A	A	適正に実施した。
	就職担当者の資質を向上する。	キャリアサポート担当の教職員を、研修会等に参加させ、資質を向上させる。	労働局などの就職支援の研修会を利用する。		A	第2学年および秘書科を対象に、ヤングハローワークによるグループディスカッションおよび面接練習を実施した。
	家庭との連携や協力を深める。	家庭が役割を認識し、その機能を発揮してもらうため、保護者との連絡を密にするなど、連携、協力を深める。	勤怠不良は職業人意識の欠如に直結するため、保護者を含めた個別指導を徹底し、修学態度の速やかな是正を働きかける。	A	A	適正に実施した。
	豊かな人間性を育む。	躰教育・挨拶・ボランティア活動などを通して、医療人として社会に貢献できる、豊かな人間性を育てよう、学校独自のプログラムを実践する。	イベントごとに担当者を明確化し、月ごとの重点目標を掲げることで、教育活動の進捗管理と質の向上を図る。	A	A	病院祭や献血ボランティア等の校外活動を積極的に推進し、学外での実践的な交流を通じた職業人意識の早期確立を図った。
(2)	生徒の就職の門戸を拡大する。	採用情報を確実に入手し、生徒の就職の門戸を拡大する。	情報を早急に開示し、学生が積極的に就職活動に取り組めるようにする。	A	A	各医療機関への巡回訪問を通じ、現場のニーズ把握と良好なコミュニケーションの構築を図った。
			卒業生の就職先を訪問し、採用情報を入手しやすくする努力をする。	B	B	臨地実習のさらなる充実を図るべく、積極的に病院訪問を行い、新規実習先の確保に向けた多角的な情報収集を推進した。

(3) 資格取得	臨床検査技師 国家試験合格 に向けて最大の 努力をする。	1年次より、国家試験に對しての意識付けを行い、日々の学習の中で最終目標である国家試験に向けて努力するようにする。	早い段階で、国家試験の出題形式を理解させ、問題に取り組みさせる。	A	A	第2学年より国家試験形式の200問模試を導入し、早期から試験に慣れる体制を整えた結果、学生の成績向上に寄与した。
			補習を行い、不得意科目を作らないようにする。	A	A	成績不振者および欠席者を対象に、個別の補講を実施し、学習の遅れを取り戻すためのフォローアップに努めた。
			常に、各教科への質問が受け付けられるよう、非常勤講師への連絡も密にする。	A	A	非常勤講師による実践的な総合演習やきめ細かな補講を導入し、学生の理解度向上と試験対応力の強化に努めた。
就職に直結する資格取得に積極的にチャレンジする。	就職をするにあたり、より有利な各検定を積極的に受験させるようにする。	資格取得支援のさらなる充実を図るため、放課後等の時間帯に心電図検定対策の補講を編成し、学生の検定合格を強力にサポートする。		A	心電図検定において、1・2年生から多数の合格者を輩出。基礎医学・生理学教育の早期定着を裏証した。	
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価 前期 年度末		成果と課題
(4) 就職率	就職率100%を維持する。	生徒の希望にそった就職率100%を目指す(大学進学も含む)	学生の希望就職先などを早期に調査し、スムーズに就職案内ができるようにする。	A	A	適正に実施した。
			2年次に病院、施設見学を行わせ、より就職への意識付けを行う。	A	A	適正に実施した。
4. 社会人基礎力						
(1) 前に踏み出す力	生徒の主体性を育成する。	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて、積極的に取り組む能力を育成する。	ボランティア活動を通じた社会体験の機会を拡充し、学生の職業人意識の向上と多角的な視点の育成を図る。	A	A	臨床検査技師会等の職能団体活動へ積極的に参画するとともに、献血ボランティアを通じて地域社会への貢献と公衆衛生の普及に寄与した。
	周りに働きかける力を育成する。	周りの人に呼びかけ、目的に向かって人々を動かす能力を育成する。	臨床現場に不可欠な衛生管理意識を養うべく、実習室等の清掃・整理整頓を徹底し、学生の規範意識と資質の向上を図る。	C	B	清掃分担を明確化したものの、当初は徹底を欠く状況が見受けられた。後期より環境整備に関する巡回指導を強化した結果、各所での整理整頓が習慣化し、学内環境の改善が図られた。
(2) 考え抜く力	課題発見力を育成する。	現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する能力を育成する。	安易な正解提示を控え、学生の意見や疑問を丁寧に汲み取ることで、自律的に課題を解決する能力の育成を図る。	B	B	学生の資質・能力を体系的に育成するプロセスにおいて、一部に習熟度の乖離が見られ、次年度に向けた指導法の再構築が課題として残された。
		課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する能力を育成する。	直面する課題に対し、解決までの手順を予測・構築し、万全な備えを講じる「先見的遂行能力」の向上を図る。	B	B	基礎カリキュラムにおいて、目標達成に至るプロセス管理の徹底が不十分であり、継続的な指導強化が必要である。
		新しい価値を生み出す能力を育成する。	学外での野外活動を通じた相互交流の場を創出し、医療従事者に不可欠な対人コミュニケーション能力の基礎を醸成する。	A	A	野外活動を通じた非日常的な交流の場を創出することで、学生間のコミュニケーションを活性化し、今後の集団学習に不可欠な協調性の醸成を図った。

(3) チームで働く力	発信力を育成する。	自分の意見を相手に分かりやすく伝える能力を育成する。	時間的なゆとりを持って学生との面談に臨み、受容的な姿勢でその想いを聴取することで、信頼関係の構築と情緒的な安定を図る。	A	A	適正に実施した
	傾聴力を育成する。	相手が話しやすい環境をつくり、相手の意見を丁寧に聞く能力を育成する。	学生と正対し、視線を合わせて語りかけることで、信頼関係の構築を図るとともに、学生自身にも医療人にふさわしい誠実な対人態度の習得を促す。	A	A	年次段階に応じたキャリア支援を推進。1年次は「倫理学」による人間形成を、2年次は具体的な「就職指導」を軸とした進路支援を実施した。
	柔軟性を育成する。	意見の違いや立場の違いを理解する能力を育成する。	授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	学生の対話能力と多角的な視点を養うため、1年次の「倫理学」および2年次の「就職指導」において集団討論を導入し、実践的な思考力の強化を図った。
	状況把握力を育成する。	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力を育成する。	丁寧な言葉遣い、その場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	A	A	適正に実施した。
	規律性を身につけさせる。	社会のルールや人との約束を守る力を育成する。	医療人としての自覚をもち、服装、頭髪が華美にならないように指導する。	A	A	適正に実施した。
			校則違反者には厳粛に対処する。	A	A	適正に実施した。
ストレスコントロール力を身につけさせる。	ストレス発散の方法を身につけたり、ストレスをポジティブにとらえて対応できる力を身につけさせる。	スポーツ大会等の交流機会を活用し、運動の励行を通じた学生の健康増進と、集団活動における連帯感の醸成を図る。	A	A	スポーツを通じた非日常的な協力機会（スポーツ交流大会等）を設け、学生間の連帯感を高めるとともに、集団内での役割遂行能力と協調性の醸成を推進した。	
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価 前期 年度末		成果と課題

5. 広報

(1) 生徒募集	分かりやすい募集要項を作成、生徒募集を行う。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項（学校案内）を作成する。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項を作成する。	A	A	令和9年度入学者に向けて募集要項の見直しをした。
			電話や来校されての問い合わせに対し、分かりやすく対応する。	A	A	随時二一スに併せ対応した。
		高等学校訪問を実施し、在校生の状況説明や学校のPRを行う。	5月より体験学習の案内、新入生の報告を行う。	A	A	4月に実施済み。
			ホームページを頻繁に更新し、学生の状況や学校の取り組みの紹介を行う。	体験学習の案内、試験日程を書き込む	A	A
		高校生へ直接PRを行う		学生の声を随時取り入れる。	A	A
			高校でのガイダンスに参加する。	A	A	会場、高校内ガイダンスともに参加した。

		メディアを使って本校の認知度を高める	広告、CMなどで本校を知ってもらう。	A	A	SNS発信を年間通して実施した
6. 組織・運営						
(1) 経営方針	経営方針を明確にし、その実践を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	中長期の学校経営ビジョンを全教職員が認識する。	A	A	キックオフミーティングで周知した。
			学校評価を8月と3月に実施する。	A	A	適正に実施した
(2) 学校評価	学校自己評価を実施し、その結果を発進させる。	自己評価結果をホームページで発信する。 自己評価結果を九州医学技術専門学校のパンフレットに掲載し、生徒やその保護者などに配布する。	自己評価結果をホームページで発信する。	A	A	適正に実施した。
			自己評価結果を年度末に保護者へ送付する。			
			自己評価結果を卒業時に配布する。			
(3) 授業評価	教員の指導力を高める。	生徒による教員の授業評価を実施し、教員の専門性・指導力の向上を目指す。	生徒による教員の授業評価アンケートを実施する。	A	A	科目ごとに全教員の授業評価を実施した。
			アンケート集計結果を学校全職員で共有し、学校関係者評価委員会に提案し、向上を図る。	A	A	非常勤講師を含め、アンケート結果を公表し授業力向上に努めた。
(4) 財務	会計監査を行い、安定した財務基盤を作る。	学生生活を送るうえ、不利益がないよう、健全な財務運営を行う。	予算、収支計画を行い、適切な会計監査を受ける。		A	適正に実施した。
			財務情報公開を行う。		A	適正に実施した。
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価 前期 年度末		成果と課題
7. 施設・設備						
(1) 施設設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検を年2回以上行い、環境整備を図る。 日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。 省エネ運動を推進し、水道・電気使用量を前年比5%減に努める。	毎月電気保安協会の点検を受ける。	A	A	適正に実施した。
			机・椅子などの備品を点検し、不良品は取り替える。	A	A	適正に実施した。
			避難経路の確認を行う。	A	A	適正に実施した。
			電気器具、器材のスイッチの入れ換えをこまめにする。	A	A	適正に実施している。
			学生へも教室の電気などの消し忘れがないよう呼びかける。	A	A	適正に実施している。

(2) 情報設備	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	パソコンの講習会などに積極的に参加する。	A	A	適正に実施している。
		パソコン上の生徒情報等の管理徹底を図る。	学生の個人情報の取り扱いには、細心の注意を払う。	A	A	個人情報取扱に関する規程を定めた。
			自宅のパソコンで業務を行わない。	B	B	一部自宅で行っている。
			ウイルス防止のプログラムの最新版を使用する。	A	A	適正に実施している。
			インターネットのアクセスは、業務以外のものはしない。	B	B	業務以外のアクセスがあった。

令和7度九州医学技術専門学校自己評価（医療秘書科）（専修学校・各種学校用）

		評価	
		前期	年度末
学校教育基本方針（教育理念）	社会生活に必要な知的で豊かな教養を持ち、医療界に貢献できる医療秘書を育成することを目的とする。	B	B
学校教育目標	社会のニーズにこたえられる人材を育成する。医療現場において他の職員と共に働くことのできる協調性と倫理観を身につけ、豊かな教養を持ち、医療界に貢献できる医療秘書を育成する。	B	B
重点努力目標	① 日常から医療人としての自覚を持ち、礼儀正しい人材育成に努める。	B	A
	② 実習と講義の連携を図ることで学習に取組みやすい環境をつくる。		
	③ 各種検定試験にチャレンジし、多くの資格を取得させ、全員就職を目指す。		

成果と課題

各種検定試験（医療事務技能試験、医事コンピュータ検定、手話検定、医療秘書技能検定3級）において100%合格を達成できた。医療秘書技能検定2級は83.3%で過去最高の合格率だった。また、今年度から新たに挑戦した医師事務作業補助者検定は100%合格、調剤事務認定は75%合格と健闘した。診療報酬請求事務能力認定では5名の合格者（昨年度2名）を排出できた。就職内定率は100%で、12月からのインターンシップもそれぞれの職場で活躍し、社会人としての一歩を踏み出すことができたが、コミュニケーション能力や他の職員との協調性に不安がある学生が見受けられ、課題を残す。

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
1. 教育課程・学習指導						
(1) 科目編成における内容や工夫	基礎科目や専門基礎科目を効果的に取り入れ、「基礎力」を育成する。	専門教科とその他の教科をバランスよく配分し、「基礎力」の育成に向けた科目間の連携に努める。	時間割の作成時に、各科目担当者の意見を反映する。	A	A	適正に実施した
		自主的な学習ができるように、科目間の進捗を調整するよう努める。	講義報告書を記入することにより、シラバスにそった講義進行であるかを確認する。	A	A	適正に実施した
		医療事務としての資格を取るために、必要な基礎知識を養う。	検定試験を意識し、段階的に習熟度をみるために、過去の検定試験問題を小テスト形式で実施する。	A	A	適正に実施した
	医療秘書として、即戦力となるような教育カリキュラムを編成する。	専門教科教科以外に、医療人として必要な知識を養う。	手話、介護、患者接遇などの授業を取り入れ、医療人としての即戦力になれるようにする。	A	A	適正に実施した
			コンピュータの授業を取り入れ、電子カルテなどに抵抗なく取組めるようにする。	A	A	適正に実施した
	就職先となる病院等での実習を行い、実際の仕事が経験できるように努める。	実習に行く前に、事前の心構え、患者接遇等、基礎的な知識の確認を行い、スムーズに取り組めるようにする。	A	A	実習前オリエンテーション&実習を実施した。	
	就職先の病院等を訪問し、卒業生の働き振りなどについて、話を聞く。（聞き取り調査）		B	臨地実習先への訪問を行い情報収集に努めた。		

		就職先の病院等を対象に卒業生の働きぶり等について調査を行い、学科の教育内容や達成目標の妥当性、あるいは重視する人材ニーズ等を分析し、その結果をカリキュラムの編成、科目の教育内容に反映するように努める。	聞き取り調査の結果を分析し、在校生の指導に活かす。		B	就職先の病院訪問は実施したが、結果の分析までは至っていない。
			聞き取り調査の結果を分析し、カリキュラムの編成、科目の教育内容に反映する。		A	新たな検定試験に挑戦するなど、カリキュラムに反映させた。
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
(2) 教科指導における内容や工夫	指導方法を工夫する。	各授業で繰り返し学習を行い、病院等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、学生自らが“気づく”ように努める。	各教科にて、授業の中でポイントを明確にし、質問、発問を工夫する。	A	A	適正に実施した
		授業のなかにグループ学習の手法を取り入れ、病院等の現場を想定した課題について、協同して取り組ませ、その結果をプレゼンテーションさせるように努める。	グループ実習により、協同して取り組ませる。	B	A	就職実務にてグループ学習し、プレゼンは個人で実施した
		しばしば授業の最後に課題を提示し、決められた期間内に提出させることで、約束を守ることを意識させるように努める。	各教科の提出物の期日を厳守させる。	A	A	適正に実施した
	現場経験者等の人材を活用し、実践的な「基礎力」を育成する。	就職先となる病院等で豊富な実務経験を積んだ教員が、本人の貴重な経験を教材として活用し、より実践的な「基礎力」が育成できるように努める。	実務経験の豊富な人材に、非常勤講師として指導に当たってもらふ。	A	A	本校は実務経験豊富な非常勤講師を揃えている
		多くの現場で活躍している人の講話や授業を行い、仕事に必要な「基礎力」仕事の達成感や厳しさについて自覚できるようになる。	卒業生の講話を実施する。	A	A	2人(2施設)の卒業生講話を実施した
	シラバスを作成し、学生に計画的な学習をさせる。	シラバス(授業計画)を作成し、学生に配布することにより、計画的な学習指導につなげる。	前期のシラバス(授業計画)を作成し、学生に配布する。	A		適正に実施した
後期のシラバス(授業計画)を作成し、学生に配布する。				A	適正に実施した	
2. 生活指導						
(1) 生活指導	全教職員で、挨拶、礼儀の指導を行う。	挨拶や礼儀作法などの指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	挨拶の慣行を図る。	B	B	授業外での慣行が課題
			授業開始、終了時の挨拶を徹底する。	A	A	適正に実施した
			職員室の入退室時の正しい動作を指導する。	A	A	適正に実施した
		医療人としてふさわしい身なりや態度を身につけさせる。	病院見学など、TPOにあわせた服装のチェックを行う。	A	A	適正に実施した
		欠席、遅刻について厳しく指導を行う。	欠席科目については、レポートを提出させ、講義内容の把握を行わせる。	A	A	適正に実施した
			遅刻、欠席の連絡を、担任に必ず行うように指導する。	A	A	適正に実施した
			必要に応じて本人との面談、または保護者との連絡を取る。	A	A	適正に実施した

(2) 相談	問題行動の予防に努める。	教職員全員で、悩みを抱える学生の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動を未然に防止する。	学生の変化に気づいたら声をかける。	A	A	適正に実施した
			朝礼などで、学生の変化などを伝え合い、共通理解を図り、学生の対応を協議する。	A	A	適正に実施した
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価 前期 年度末		成果と課題
3. 進路						
(1) キャリアサポート	早期に面談や適性検査等を実施して、学生の希望に即した適切な進路指導を目指す。	6月までに、学生個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	6月までに学生個人の進路意識を調査・把握し、在学中のキャリアサポートに活用する。	A	A	適正に実施した
		学習のモチベーション、就職への動機づけなどを高めるため、入学後の早い段階から、就職適正に関する個別面談・指導を行う。	個人面談、3者面談を必要に応じて実施し、学生の希望に沿った指導を行う。	A	A	適正に実施した
	具体的でわかりやすいアドバイスをを行う。	就職指導においては、一般常識対策や専門分野の試験対策、また、就職活動の進め方、履歴書の書き方、マナーなど、早期段階から具体的に指導を行う。	履歴書の書き方、面接の方法など具体的に指導にあたる。	A	A	適正に実施した
			就職担当者をおき、常に相談・指導できるようにする。	A	A	就職担当者およびキャリアサポート室で取組んだ
	就職担当者の資質を向上する。	キャリアサポート担当の教職員を、研修会等に参加させ、資質を向上させる。	労働局などの就職支援の研修会を利用する。	/	A	ヤングハローワークによるグループディスカッション・面接練習を実施
	家庭との連携や協力を深める。	家庭が役割を認識し、その機能を発揮してもらうため、保護者との連絡を密にするなど、連携、協力を深める。	遅刻、欠席の多い者には、保護者に連絡を取り、早期改善に努める。	A	A	随時連絡を入れている
豊かな人間性を育む。	躰教育・挨拶・ボランティア活動などを通して、医療人として社会に貢献できる、豊かな人間性を育めるよう、学校独自のプログラムを実践する。	担当者を決め、月ごとの重点目標を掲げるようにする。	B	B	月ごとの目標とはいかなかったのが課題	
(2) 職場開拓	学生の就職の門戸を拡大する。	採用情報を確実に入手し、学生の就職の門戸を拡大する。	情報を早急に開示し、学生が積極的に就職活動に取り組めるようにする。	/	A	適正に実施した
			卒業生の就職先を巡回し、採用情報を入手しやすくする努力をする。	B	B	臨地実習先への訪問を行い情報収集に努めたが、門戸拡大とまではいかなかった
(3) 資格取得	各種検定試験合格に向けて最大の努力をする。	早い時期より検定試験に対しての意識付けを行い、日々の学習の中で最終目標である資格取得に向けて努力するようにする。	早い段階で、検定試験の内容を理解させ、問題に取り組みさせる。	A	A	適正に実施した
			補習を行い、不得意科目を作らないようにする。	B	B	不得意科目の攻略が課題
			常に、各教科への質問が受け付けられるよう、非常勤講師への連絡も密にする。	A	A	適正に実施した
	就職に直結する資格取得に積極的にチャレンジする。	就職をするにあたり、より有利な各検定を積極的に受検させるようにする。	資格取得の重要性を伝え、各能力に応じて、取り組める資格にチャレンジさせる。	A	A	適正に実施した

評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
(4) 就 職 率	就職率100%を維持する。	学生の希望にそった就職率100%を目指す	学生の希望就職先などを早期に調査し、スムーズに就職案内ができるようにする。	A	A	適正に実施した
			8月に病院実習を行わせ、より就職への意識付けを行う。	/	A	適正に実施した
4. 社会人基礎力						
(1) 前 に 踏 み 出 す 力	学生の主体性を育成する。	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて、積極的に取り組む能力を育成する。	ボランティア活動への関心を高めさせる。	B	B	献血ボランティアに参加した
	周りに働きかける力を育成する。	周りの人に呼びかけ、目的に向かって人々を動かす能力を育成する。	校内美化に努め、教室、実習室の清掃活動に取り組ませる。	A	A	担当場所を決め大掃除を行った
(2) 考 え 抜 く 力	課題発見力を育成する。	現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する能力を育成する。	質問にすぐに答えるのではなく、学生の考えを十分聴く。	B	B	生徒の能力を育成するプロセスに課題が残った
		課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する能力を育成する。		B	B	生徒の能力を育成するプロセスに課題が残った
		新しい価値を生み出す能力を育成する。	友人関係を広げるように指導する。	C	C	友人関係を広げるプロセスに課題が残った
(3) チ ー ム で 働 く 力	発信力を育成する。	自分の意見を相手に分かりやすく伝える能力を育成する。	学生に十分な時間を与え話を聞く。	A	A	適正に実施した
			授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	就職実務、患者接遇などを設けた
	傾聴力を育成する。	相手が話しやすい環境をつくり、相手の意見を丁寧に聞く能力を育成する。	学生の目を見て説明し、学生にも同じように指導する。	A	A	適正に実施した
	柔軟性を育成する。	意見の違いや立場の違いを理解する能力を育成する。	授業の中で、集団討論をする時間を設ける。	A	A	就職指導で実施
	状況把握力を育成する。	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力を育成する。	丁寧な言葉遣い、その場に応じた適切な言葉遣いを指導する。	A	A	適正に実施した
	規律性を身につけさせる。	社会のルールや人との約束を守る力を育成する。	医療人としての自覚をもち、服装、頭髪が華美にならないように指導する。	A	A	適正に実施した
校則違反者には厳粛に対処する。			A	A	適正に実施した	
評価項目	目 標	具 体 的 方 策	具 体 的 取 組	評 価		成 果 と 課 題
				前 期	年 度 末	
	ストレスコントロール力を身につけさせる。	ストレス発散の方法を身につけたり、ストレスをポジティブにとらえて対応できる力を身につけさせる。	スポーツ大会等への参加を促し、運動の励行を指導する。	A	A	保健体育実習を実施した

5. 広報						
(1) 学生募集	分かりやすい募集要項を作成、学生募集を行う。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項（学校案内）を作成する。	受験生やその保護者に分かりやすい募集要項を作成する。	A	A	令和9年度入学者に向けて募集要項の見直しをした。
			電話や来校されたの問い合わせに対し、分かりやすい努める。	A	A	随時二週に併せて対応した
		高等学校訪問を実施し、在校生の状況説明や学校のPRを行う。	5月より体験学習の案内、新入生の報告を行う。	A	A	4月に実施済み
		ホームページを頻繁に更新し、学生の状況や学校の取り組みの紹介を行う。	体験学習の案内、試験日程を書き込む	A	A	SNSを活用し、頻繁に行っている
			学生の声を随時取り入れる。	A	A	HPの全面リニューアルを行っている
		高校生へ直接PRを行う	高校でのガイダンスに参加する。	A	A	会場、高校内ガイダンスともに参加した。
メディアを使って本校の認知度を高める	広告、CMなどで本校を知ってもらう。	A	A	SNS発信を年間通して実施した		
6. 組織・運営						
(1) 経営方針	経営方針を明確にし、その実践を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	中長期の学校経営ビジョンを全教職員が認識する。	A	A	キックオフミーティングで周知した
			学校評価を8月と3月に実施する。	A	A	適正に実施した
(2) 学校評価	学校自己評価を実施し、その結果を発進する。	自己評価結果をホームページで発信する。	自己評価結果をホームページで発信する。	A	A	適正に実施した
		自己評価結果を九州医学技術専門学校のパフレットに掲載し、学生やその保護者などに配布する。	自己評価結果を卒業時に配布する。			
評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価		成果と課題
				前期	年度末	
(3) 授業評価	教員の指導力を高める。	学生による教員の授業評価を実施し、教員の専門性・指導力の向上を目指す。	学生による教員の授業評価アンケートを実施する。	A	A	科目ごとの全教員の授業評価を実施した
			アンケート集計結果を学校全職員で共有し、学校関係者評価委員会に提案し、向上を図る。	A	A	結果を非常勤職員を含め共有し、授業力向上に寄与した。
(4) 財務	会計監査を行い、安定した財務基盤を作る。	学生生活を送るうえ、不利益がないよう、健全な財務運営を行う。	予算、収支計画を行い、適切な会計監査をうける。		A	適正に実施した
			財務情報公開を行なう。		A	適正に実施した
7. 施設・設備						

(1) 施設設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検を年2回以上行い、環境整備を図る。	毎月電気保安協会の点検を受ける。	A	A	適正に実施した
			机・椅子などの備品を点検し、不良品は取り替える。	A	A	適正に実施した
		日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	避難経路の確認を行う。	A	A	適正に実施した
		省エネ運動を推進し、水道・電気使用量を前年比5%減に努める。	電気器具、器材のスイッチの入れ換えをこまめにする。	A	A	適正に実施している
			学生へも教室の電気などの消し忘れがないよう呼びかける。	A	A	適正に実施している
(2) 情報設備	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	パソコンの講習会などに積極的に参加する。	A	A	適正に実施している
		パソコン上の学生情報等の管理徹底を図る。	学生の個人情報の取り扱いには、細心の注意を払う。	A	A	適正に実施している
			自宅のパソコンで業務を行わない。	B	B	一部に自宅でのPC業務が見受けられた
			ウイルス防止のプログラムの最新版を使用する。	A	A	適正に実施している
			インターネットのアクセスは、業務以外のものはしない。	B	B	業務以外のアクセスがあった